

大気分野 重点検討項目について

重点点検分野名：大気環境保全に関する取組

重点検討項目①	社会情勢の変化を踏まえた新たな課題への対応
関係府省	環境省、国土交通省、厚生労働省、農林水産省、文部科学省、警察庁
検討内容の詳細	<p>近年、騒音を発生する施設、形態が多様化し、従来の環境基準や規制を必ずしも適用できない新しい騒音、低周波音の問題が発生している。また、新たな宅地開発に伴い、新たに居住することとなった者に係る騒音問題が発生していることも環境基準の達成率が改善しない要因と推測されている。</p> <p>一方、民間建築物の解体が今後ピークを迎える中、アスベスト飛散、ばく露防止対策の徹底も重要である。さらに、大都市を中心とする平均気温の上昇に伴い、大気の大気熱ストレスが増大する地域においてヒートアイランド対策及び熱中症対策を推進する必要がある。</p> <p>こうした様々な社会的状況の変化に伴う新たな課題について、科学的知見を踏まえて、検討を行う必要があり、このような観点から、以下の項目について検討を行う。</p> <p>a) 騒音・低周波音に係る科学的知見の集積と対策の検討 【環境省】</p> <p>b) 後住者に係る交通騒音問題の未然防止 【環境省】</p> <p>c) ヒートアイランド対策の計画的実施の促進 【環境省、国土交通省、農林水産省、文部科学省、警察庁】</p> <p>d)アスベスト飛散、ばく露防止対策 【環境省、国土交通省、厚生労働省】</p>

重点検討項目②	広域的な取組を重視した大気汚染対策の取組 (H25点検時の課題指摘事項)
関係府省	環境省、経済産業省、外務省、国土交通省
検討内容の詳細	<p>平成 25 年 1 月頃から中国においてPM2.5 による深刻な大気汚染が発生し、我が国でも一時的にPM2.5 濃度の上昇が観測された。PM2.5 による大気汚染について国民の関心が高まってきたことも踏まえ、PM2.5 対策の更なる強化が必要である。また、光化学オキシダントの平均濃度は漸増傾向にあり、環境基準達成率は 1%に満たない。</p> <p>PM2.5 対策や光化学オキシダント対策については、都道府県単位又は国単位を越えた広域的な取組が重要であり、このような観点から、以下の項目について検討を行う。</p> <p>a) PM2.5 に係る取組 【環境省】</p> <p>b) 光化学オキシダントに係る取組</p>

	<p>【環境省、国土交通省、経済産業省】</p> <p>c) 東アジア地域における広域大気汚染に係る国際的な取組</p> <p>【環境省、経済産業省、外務省】</p>
--	---

重点検討項目③	<p>排出ガス、騒音などの自動車に起因する環境負荷の低減に向けた取組</p> <p>(H25点検時の課題指摘事項)</p>
関係府省	<p>環境省、経済産業省、国土交通省、警察庁</p>
検討内容の詳細	<p>自動車排出ガスによる大気汚染については、自動車の単体規制や自動車NOx・PM法、低公害車の普及促進により、全体としては改善傾向にあるが、NO2については、環境基準を達成していない地点が引き続き残存している。自動車騒音については、発生源対策等の実施により、環境基準の達成状況は全体として改善の傾向にあるが、依然として環境基準が達成されていない状況にある。</p> <p>環境的に持続可能な都市・交通システムの実現を目指しつつ、自動車に起因する環境負荷の低減に取り組むことが重要であり、このような観点から、以下の項目について検討を行う。</p> <p>a) 環境性能に優れた自動車の普及促進の取組 【環境省、経済産業省、国土交通省】</p> <p>b) 自動車単体規制の取組 【環境省、国土交通省】</p> <p>c) エコドライブや公共交通機関利用の促進等交通の環境負荷低減対策や未然防止対策などの総合的な取組 【環境省、経済産業省、国土交通省、警察庁】</p>